

事例7-5

取組名	防災を切り口とした町会活動の再構築		
町会名	よしかわもっこう 芳川木工町会（芳川地区）	町会 データ	・人口／1,404人 ・世帯数／712世帯 ・高齢化率／24.72% ・町会加入数／441 ・常会数／6常会 ・隣組数／42組
取組概要	○ 防災マニュアルや世帯調査を基に、安否確認の作成等、防災活動に力を入れることで、町会活動の再構築を図るもの。		

背景・課題

- ・ 平成23年の長野県中部地震（通称「松本地震」）で町会内でも大きな被害が発生したことから防災への関心が高まり、町会としての防災対策が求められるようになった。
- ・ 一方、マンションやアパートの増加もあり、町会に対する関心が高まらず、加入率も減少している。R6年度、役員をやりたいくないからという理由で自治組合の一つが町会から離脱した。

経過・取組内容

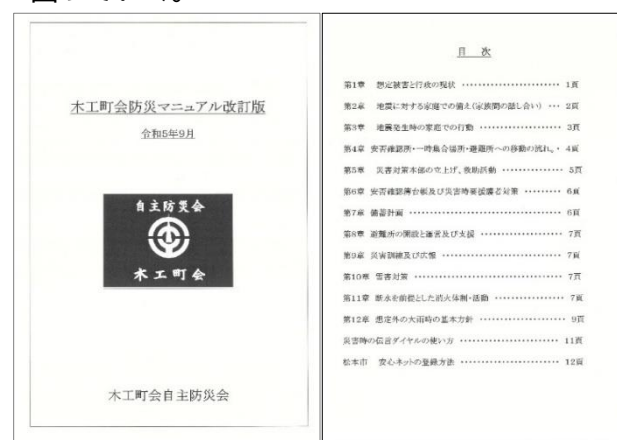
- ・ 「松本地震」を契機に、町会とは別組織で新たな自主防災会を再構築して有志を集め活動している。H30年度に町会防災マニュアルを作成し、R5年度に更新を行った。
- ・ 自主防災会は理事が21人、常任理事が6人。理事長は、以前は町会長兼任だったが、全理事の互選になっている。自主防災会の活動費は全額町会からの補助金による。
- ・ 毎年4月に各世帯の調査を実施して、万一の際に利用する「安否確認簿（世帯名簿）」を作成している。
- ・ 防災訓練は毎年9月に、町会と自主防災会が合同で実施しているが、訓練前には町会防災マニュアルの説明会を実施する。
- ・ 訓練当日は安否確認簿を利用して安否確認を行う。各常会で事前に決めた「安否確認所」（位

置図次ページ）に集合し、4月に調査した世帯名簿をもとに安否確認を行う。

- ・ 安否確認は、世帯名簿に変更がないかの確認も兼ねて行い、組別に集計して組長に配布。
- ・ R7年度は、とん汁の炊き出しも行った。参加者は、役員も合わせて20人程度であった。

成果・今後の展望等

- ・ 自主防災会の設置や世帯名簿の作成、防災マニュアルの説明会、安否確認訓練等、一連の活動を通じて、住民同士の関係づくりや町会の必要性を再認識する機会が生まれている。
- ・ 今後、訓練への参加者を増やしながら、災害に強いまちづくりを推進することで、町会離れに歯止めをかけるとともに、町会活動の再構築を図っていく。

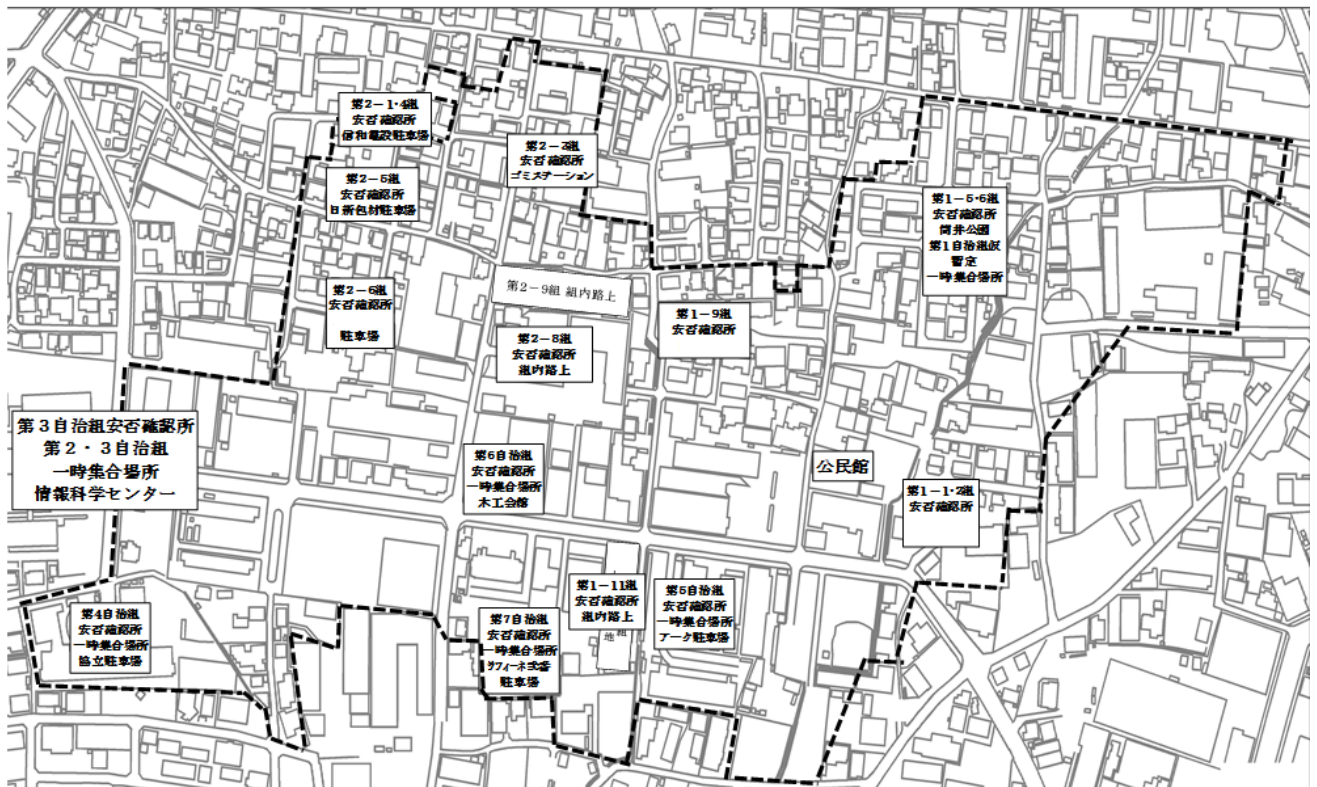


木工町会の防災マニュアル（表紙と目次）

【ポイント】

- ▼ 「防災」に注力することで、町会の価値を高め、町会活動を再構築

安否確認所・一時集合場所



木工町会の防災マニュアルより 「安否確認所」 位置図